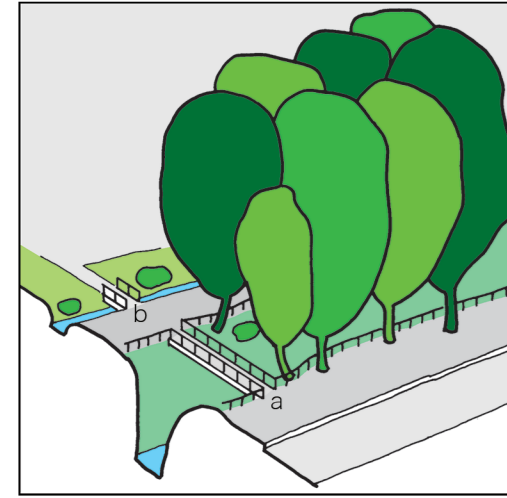


1 始まりは、玉川上水



a ひがしたかのはし
b うさぎはし

国分寺市内を流れていた分水は、玉川上水から引かれていました。

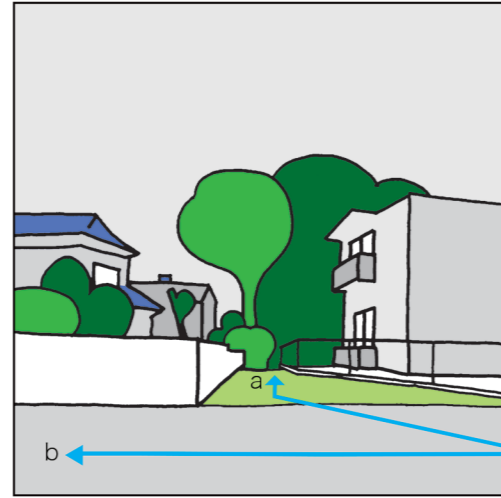
3 -1 弁財天



a 殿島大弁財天
b 恋ヶ窪交差点
c 貫井村分水
d 国分寺村分水

国分寺村分水は、恋ヶ窪交差点で貫井村に向かう分水と枝分かれします。

4 -2 枝分かれ



a 恋ヶ窪村分水
b 国分寺村分水

かつての国分寺村分水の幅は、約120cmで現在の歩道とほぼ同じです。恋ヶ窪村分水の幅は約85cmでした。

6 回し堀



a 恋ヶ窪村分水
b 回し堀

ここで、水車を回すための水路(回し堀)が恋ヶ窪村分水から枝分かれしていました。

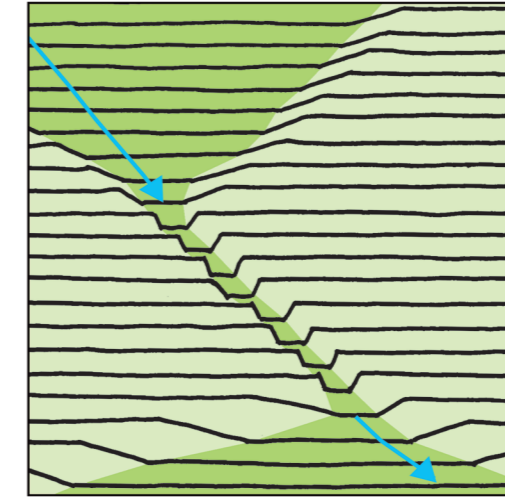
8 合流



a 恋ヶ窪村分水
b 戸倉新田分水
c 東恋ヶ窪ライオン公園

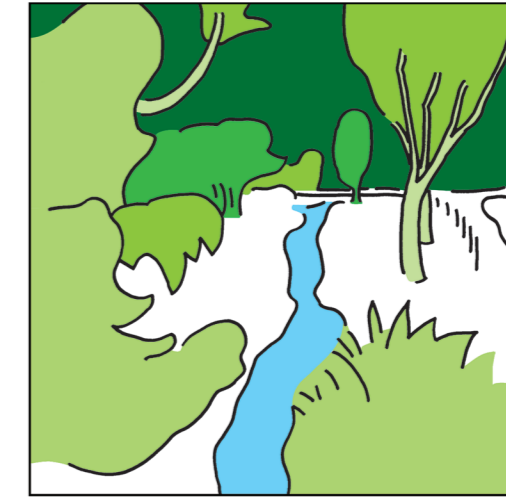
東恋ヶ窪ライオン公園付近で、戸倉新田分水が恋ヶ窪村分水と合流しました。この周辺には、水路の痕跡が色濃く残っています。

10 -1 市重要史跡 恋ヶ窪村分水



ここは市重要史跡に指定された、恋ヶ窪村分水。谷に挟まれた台地に水を通すため、堀が深く作られました。

11 水路の復元



現在の姿見の池と池に流れる水路は、整備工事によって復元されました。水路に流れる水は、地下水を汲み上げたものです。

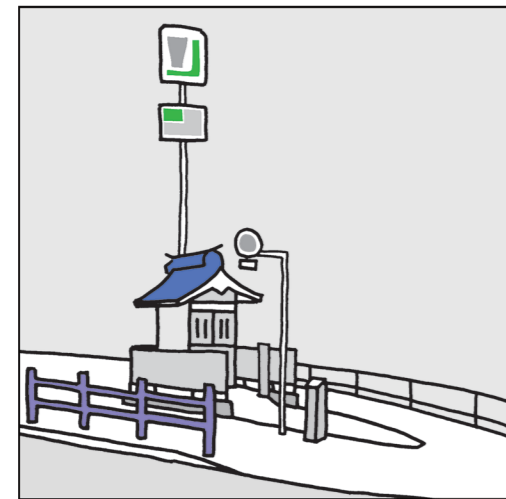
2 -1 砂川用水



a 砂川用水
b 伏見稲荷
c 五日市街道

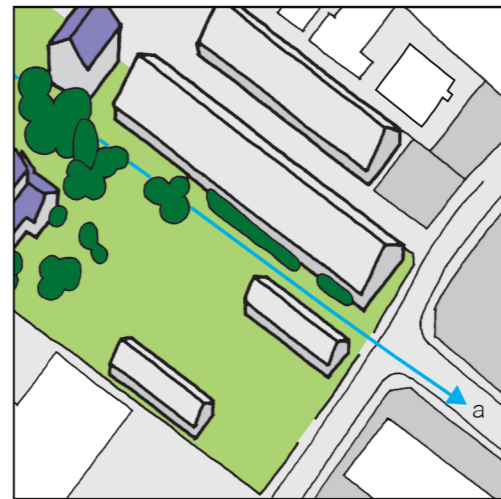
砂川用水は、水路の形や水の流れをうかがい知ることができる貴重なスポットです。

3 -2 弁財天



水にまつわる神様として、地域の信仰を集めた弁財天。社はかつて水車業を営んでいた戸倉家にあり、のちに現在の場所へ移されました。

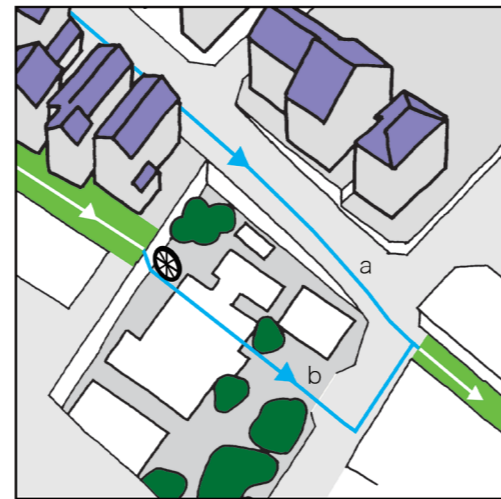
5 -1 畑を抜ける



a 恋ヶ窪村分水

国分寺村分水から分かれた恋ヶ窪村分水は、西国分寺駅方面へ南下し、畑を通り抜けて道路に沿うかたちで流れていました。

7 -1 鈴木水車



a 恋ヶ窪村分水
b 回し堀

回し堀では、坂を利用した落差で水の流れを速くし、水車を回していました。水は恋ヶ窪村分水に戻るつくりになっていました。

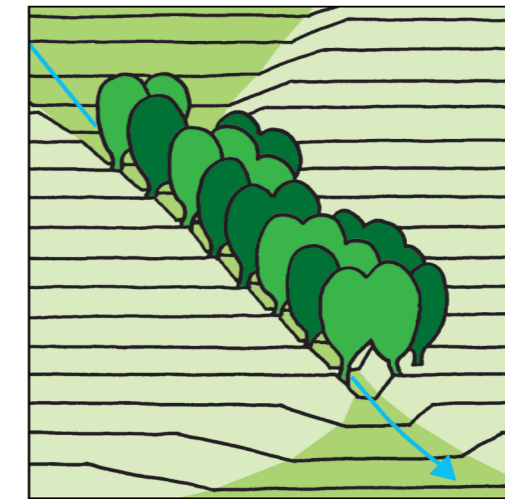
9 -1 仲よしばし



a 恋ヶ窪村分水
b 仲よしばし

水路跡をまたぐかたちで「仲よしばし」という橋が架かっています。

10 -2 市重要史跡 恋ヶ窪村分水



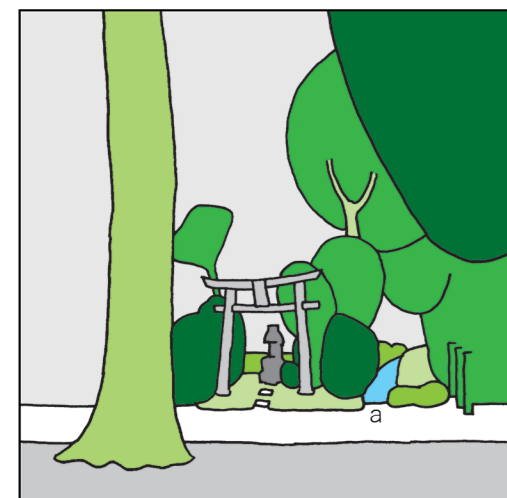
現在は「恋ヶ窪用水路周辺緑地」として整備され、市民の憩いの場になっています。

12 -1 田んぼがあった



住宅地の中にある、水路跡に囲まれた不思議な三角地。かつては水田でした。

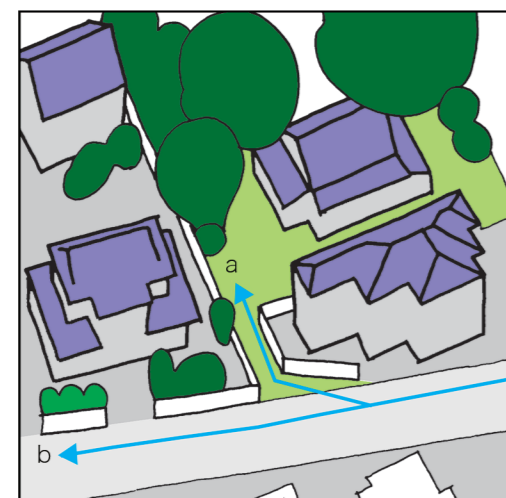
2 -2 砂川用水



a 砂川用水

伏見稲荷と砂川用水

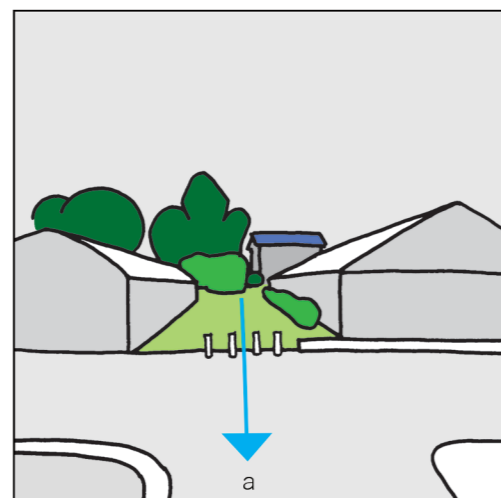
4 -1 枝分かれ



a 恋ヶ窪村分水
b 国分寺村分水

民家の間にのびるすきま。ここで、国分寺村分水と恋ヶ窪村分水が枝分かれしていました。

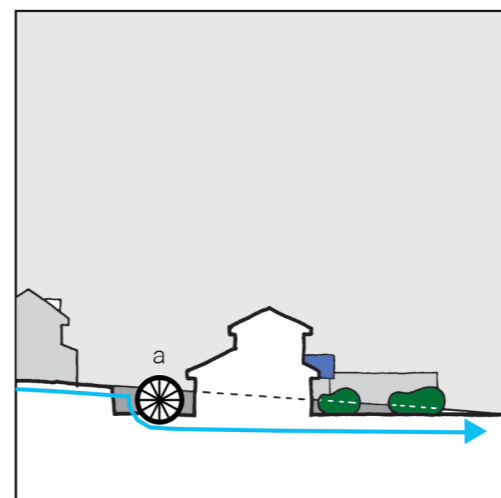
5 -2 畑を抜ける



a 恋ヶ窪村分水

畑と道路と恋ヶ窪村分水

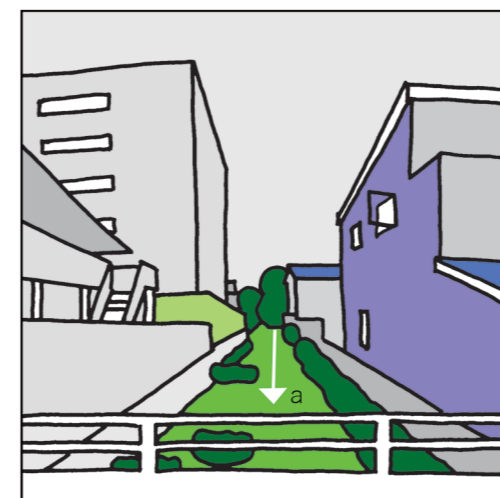
7 -2 鈴木水車



a 水輪

水車は「中がけ」と言い、水輪(みずわ)の中ほどに水をかけて回す方式でした。

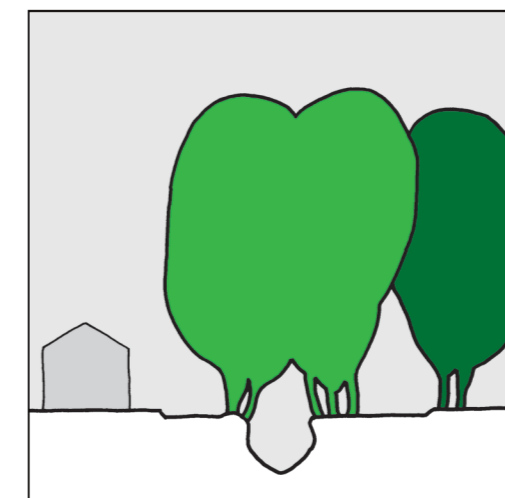
9 -2 仲よしばし



a 恋ヶ窪村分水

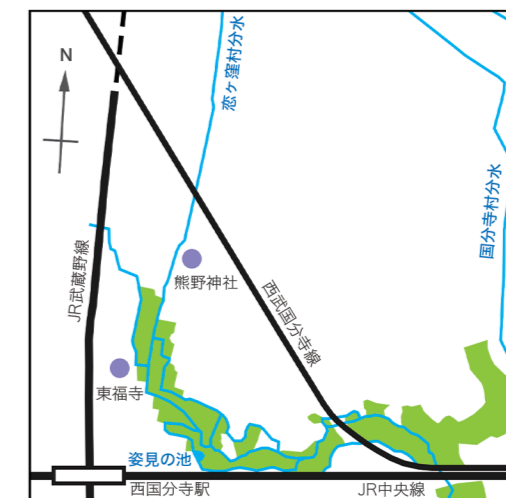
仲よしばしからの眺め

10 -3 市重要史跡 恋ヶ窪村分水



堀の幅は広いところで約6~9m、深さは約5.2~5.5mと大規模なものでしたが、水が流れていたのは底から50cmほどでした。

12 -2 田んぼがあった



水路
水田

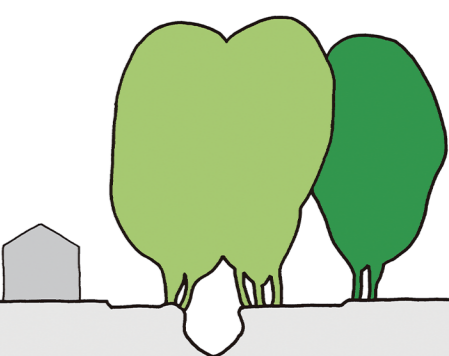
昭和2年(1927)ごろの地図に、現在の鉄道を描きました。決して多くはない田んぼ。水路の周辺に作られていたことがわかります。

恋ヶ窪村分水マップ



流れをたどって

玉川上水・姿見の池
かつての水路をたどる



玉川上水と恋ヶ窪村分水

玉川上水は、江戸の水不足を解決するためにつくられた水路です。多摩川の水を引くために、羽村の取水口（現在の羽村市）から四谷大木戸（現在の新宿区）まで約43kmにわたる大工事を経て、承応3年（1654）に完成しました。谷を避けて、武蔵野台地の稜線の上を流れる経路でつくられたため、周りの村々に分水して水を供給することができました。

国分寺村分水（国分寺村外二ヶ村組合分水）は、明暦3年（1657）に国分寺村・恋ヶ窪村・貫井村（現在の小金井市）に水を引き、水田を増やすためにつくられました。江戸時代には玉川上水から33もの分水がつくられましたが、国分寺村分水はその中で2番目に古い分水です。もともとは農業用水や飲み水などに利用されていましたが、次第に水車などにも利用されるようになりました。恋ヶ窪村分水は、国分寺村分水が3本に枝分かれた中のひとつです。

昭和40年（1965）以降、利根川を水源とする武蔵水路が使用されるようになったことで、恋ヶ窪村分水はその役目を終えました。そして平成29年（2017）、土木遺産としての貴重さから、国分寺市重要史跡に指定されました。史跡として保存されているのは、約1kmの長さだった恋ヶ窪村分水のごく一部分です。現在ではそのほとんどが道路や住宅地となっています。

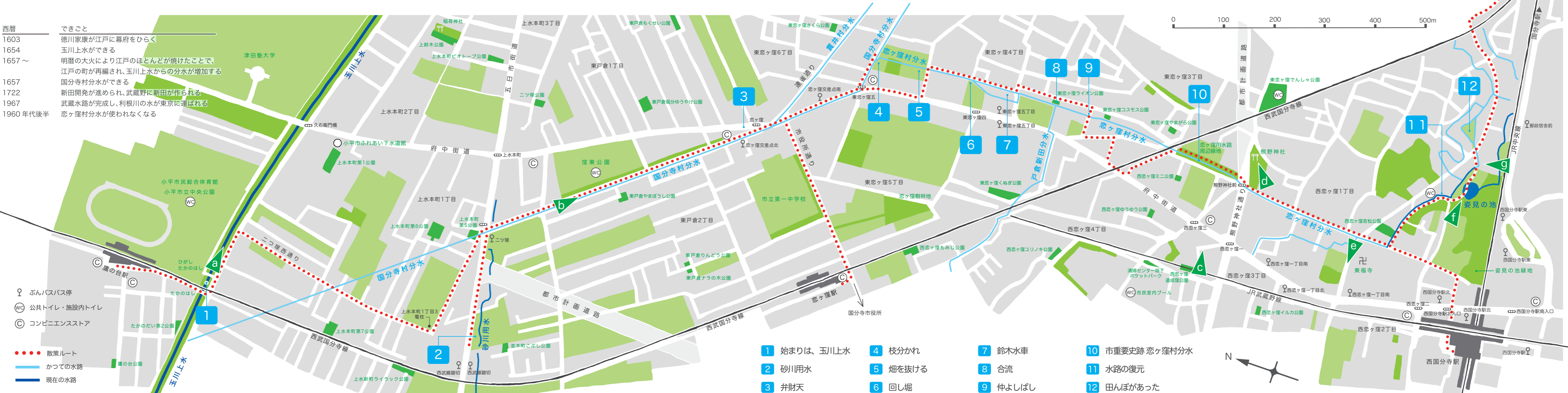
このマップは、国分寺村分水から恋ヶ窪村分水に至るルートを実地の地図に再現し、かつての水路をたどることができるようになっています。今も残る分水の痕跡を、探しに行きませんか。

見学に際しての注意事項

- ・私有地には絶対に立ち入らないでください。
- ・住宅街を通りますのでお静かにご見学ください。
- ・車などに十分ご注意ください。
- ・市重要史跡恋ヶ窪村分水の空堀の中には入れません。散策路からご見学ください。

西暦	できごと
1603	徳川家康が江戸に幕府をひらく
1654	玉川上水ができる
1657～	明暦の大火により江戸のほとんどが焼けたことで、江戸の町が再編され、玉川上水からの分水が増加する
1657	国分寺村分水ができる
1722	新田開発が進められ、武蔵野に新田が作られる
1967	武蔵水路が完成し、利根川の水が東京に運ばれる
1960年代後半	恋ヶ窪村分水が使われなくなる

- 📍 ぶんバスバス停
- 🚻 公共トイレ・施設内トイレ
- 🏪 コンビニエンスストア
- 👤 散策ルート
- 🌊 かつての水路
- 🟦 現在の水路



- 1 始まりは、玉川上水
- 2 砂川用水
- 3 弁財天
- 4 枝分かれ
- 5 畑を抜ける
- 6 回し堀
- 7 鈴木水車
- 8 合流
- 9 仲よしばし
- 10 市重要史跡 恋ヶ窪村分水
- 11 水路の復元
- 12 田んぼがあった



イラスト・地図・デザイン 小倉康正